

こんにちは 松坂みち子 です



日本共産党市議会議員 松坂みち子の活動報告
ご意見など、ぜひお寄せ下さい。

< No.381 2018.9.26 連絡先 402-1622 >

共産党議員の一般質問

熱中症対策の強化

松坂美知子議員

松坂議員は、今年の夏は最高気温が35度を超える猛暑日が各地で続き、熱中症による搬送が増え死亡者も出ていることから、熱中症の予防策であるエアコンの設置について質問しました。小中学校の普通教室のエアコンは完備されたものの特別教室への設置ができていないことについて市の考えを質問しました。また、死亡のリスクが高い高齢者への情報の徹底と見守りの強化を要求。また、連絡所・コミセンなどで市が取り組む熱中症予防

のための休憩所について、民間事業者にも協力を求めて取り組むよう提案。また新規の生活保護者にはエアコンの設置費用を国が認めるようになったものの、これまでの生活保護世帯は除外されている問題を指摘し、改善を求めました。

危険な松島踏切の改善

都市計画道路の整備のときに対策を考えるとする市に対し、今の子どもたちの安全対策をおこなうべきと質問しました。



就学援助制度の改善

中村朝人議員

中村議員は、尾花市長が市長選挙の討論会で、就学援助制度について国基準に追いつくことやさらに上乘せについても言及したことから、いつまでに取り組むのかと質問しました。また、就学援助受給の対象世帯の所得が生活保護世帯と同程度となっている問題を指摘し、改善を求めました。尾花市長は時期については答

えず「順次引き上げる。認定基準は今後、検討する」と答弁。中村議員は、中学校入学時の新入学学用品費の支給が3月となったものの該当者からは制服の採寸時期までに支給を求める声のあることから支給時期をもっと早くすることを求めました。

中村議員は台風21号による停電や断水、家屋の破損などについて市民の声を紹介し、市の対応について、市長の考えをたきました。



みち子のひとりごと 敬老の日

先日、孫の通う幼稚園+孫の名前で手紙が来ました。何?と思いついて、年中の孫の描いた絵と、今年1年生のお姉ちゃんの手紙が入っていました。「わかやまのばあばだいきだよ」という予想しなかつた告白にほろりとし「ばあばも大好き」と思わずつぶやきました。園と娘のはからいにも感謝です。

同居の母のところには甥から暖かい上着が届き「○○が服送ってくれてるんやけど何でやる」と不思議そう。「敬老の日だからでしょう」と言う。「そうか!」と。この親にしてこの子あり、というところでしょうか。

思い返せば私自身、敬老の日を意識して祖父母に連絡をとったりプレゼントをするなど、何かをしたという記憶はあまりありません。もっとしてあげられることがあったはずなのに今になって反省しています。

政治ももっと高齢者に優しくありたいものです。



ニュースを作っているパソコンが新しくなって、今まで使っていた字体がなくなってしまいました。なんだか見慣れない感じですが、よろしくお願ひします。

こんにちは

井本ゆういちです

ぶどう狩りのあと、沖繩支援に行ってきた。向うはまだ真夏で強烈な日差しのもと、毎日、街頭宣伝をしました。支援に入った豊見城市の行く先々で力強い声援をたくさんもらいました。

22日の玉城デニー決起集会へも参加しました。その日だけは夕立にあいましたが、雨の中でもデニーさんの演説と、翁長前知事夫人の樹子さんのサプラ



イズ登壇に会場は熱気に包まれました。

安倍内閣が総がかりで知事選挙に圧力をかけていますが、ぬちひじり（命がけで）はねかえず沖繩県民の熱い決意を、日焼けとともに肌で感じ取り帰ってきました。



障害者福祉 市の姿勢を問う

姫田高宏議員

姫田市議は、和歌山市障害者差別解消推進条例の真のねらいについて「障害者の暮らしを改善することを通じて、すべての人に人権を保障していくことにある」と強調。障害者施設を減らそうという国の方針を批判するとともに、グループホームの利用増や、空き家を活用したグループホームの整備補助、福祉タクシー券を増やすこと、視覚障害者への点字による通知などを求めました。川崎福祉局長は現行制度の説明にとどまりました。

姫田市議は、企画・立案を業者にまかせ、できた施設は外部に管理委託し、担当部局の仕事は予算確保だけという行政組織ではなく、市の将来性を見据えた企画をする部門が必要だと力説。庁内論議や意思決定についてたどりました。

尾花市長は、重要施策について「横断的な会議で議論を重ね、決裁行為により意思決定している」としました。

食品ロスの削減対策

南畑幸代議員

食品ロスとは、本来食べられるのに廃棄されている食料のことです。南畑議員は、今世界中では8億人もの人々が栄養不足になっている一方で、毎年生産された食料の3分の1が捨てられており、日本でも同様に1年間で8291万トンの食料が捨てられていると指摘。世界でも日本でも、食品ロスをなくそうとの取り組みがあるものの、まだ本格化していないことから、市としても積極的に取り組むべきだと質問しました。南畑議員は食品ロスを引き取り、必要とする個人や団体に譲渡するフードバンクの取り組みを紹介し、和歌山市内でも取り組むことが必要だと主張しました。



また、浸水対策について、市の雨水の事業計画や浸水地域の住民の要望把握、整備状況について質問しました。

環境害する空き家の対策

森下佐知子議員

森下議員は、所有者が住んでいない空き家が周辺住民の生活に悪影響を及ぼさないよう管理する責任は所有者が果たすべきだと指摘。しかし実際には、放置され草木が茂り、隣家や道路に覆いかぶさり、虫が発生などの苦情が多数寄せられていることを紹介。危険家屋の撤去については代執行できる法が整備されたが、市の関係各課が所有者にはたらきかけても、以前改善されない点について打開策はないのかと質問。空き家対策を含む住宅問題について市場原理に任せるだけでなく市の住宅政策を充実させるべきだと主張。

また、21号台風で学校給食が作れなかったことから、避難所になっている小中学校の給食のあり方を一考すべきではないかと質問。さらに、トイレの洋式化や男女別化について、今年度末までの進捗計画について質問しました。